

## 報告書

### 会員研修会 シーカヤック シビアコンディション下でのレスキュー

2020年11月6日 アースクエスト 紺野祐樹

開催日 2020年10月20日

開催場所 岩手県普代村 譜代海岸周辺海域

主管 アースクエスト

講師 中村 昭彦（一滴 Paddling & Mountain Guide） IT/GT

紺野 祐樹（アースクエスト） IT/GT

参加者 4名（公認スクール代表者及びスタッフ）

#### 実施内容

##### ○うねり、風浪の中でのグループレスキュー

うねり 1m+、風浪 30~50cm、風速 4m/s~5m/s の海域に於いて、沈脱者のレスキューを実践した



##### ○岩礁地帯でのグループレスキュー

波高 1m+、風浪 30~50cm、風速 4m/s~5m/s の岩礁地帯で、風下及び風上に岩礁がある状況下で沈脱者のレスキューを実践した



○岩礁地帯・強風下でのスイマーレスキュー

うねり 1m 程度、風速 5m/s 程度の風が吹き抜ける岩礁内で、沈脱者とカヤックが分離した状況下でのレスキューを実践した。

○洞窟内でのレスキュー

1m 程度のうねりの入っている洞窟内で、沈脱者のレスキューを実践した。

○うねりの中でのセルフレスキュー

うねり 1m+、風速 4m/s 程度の風浪のある状況下で、馬乗りによる再乗艇を実践した。

○サーフゾーンでの上陸

かけ上がりの急峻な砂浜で、肩サイズの波浪が打ち寄せる中での上陸を実践した。

## 所感

普段なかなかレスキューを実践する機会が無い海況下で、様々なケースのレスキューを実践できた。風浪、うねり、岩礁と、遭遇する可能性が高いシチュエーションで、沈脱者の安全を確保しながらレスキューの実践を行うために、救助者とは別にバックアップ要員を残して IT が沈脱を行った。参加者は、基本的なボートコントロールの重要性の認識や、岩礁がある状況下でのレスキューの段取り、所要時間等がイメージできるようになったと考える。沈脱をした IT にとっても、なかなか体験できない救助される側の感覚を掴むことができ、非常に有意義な研修であったと思います。今後も、継続的にこの種の研修を続けていきたいと思っています。

(アースクエスト 紺野)

うねりや風の影響が強い場所や岩礁帯でのレスキュートレーニングでした。レスキューの研修会では安全管理が非常に重要となります。要救助者は担当の紺野と中村と希望した 1 名だけが行い、救助を担当する人以外にサポートを付け、バックアップがとれるよう工夫しました。どのような状況下でも最後に生きてくるのは基本的なスキルです。それを落ち着いてできることで、その場その場で対応するための応用がうまれてくるのだと思います。そして、このような状況でレスキューをすることがないようプランニングすることがもっと重要であると認識していただければ、非常に有意義な会であったと思います。

(一滴 Paddling & Mountain Guide 中村)